

暁木会会員 各位

平成 24 年 9 月 吉日

暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第 22 号では平成 23 年度総会、田中泰雄先生および中山昭彦先生の退職記念パーティー、近況報告、研究報告、就職、などが掲載されております。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

平成 23 年度総会

平成 23 年度の総会と懇親会を例年通り湊川神社の楠公会館で開催いたしました。平成 22 年度は東日本大震災が発生したことを受けて総会は通常通り実施しましたが懇親会は中止いたしましたので、2 年ぶりに通常の形式で総会を実施したことになります。今回の総会では、新入会員紹介の時間を短縮するため、卒業生・修了生とご来賓・教員・会員が対面する形でしての配席としました。対面席にすることで、肉声で自己紹介を行うことになったこともあって、出席者からは概ね好評でした。

総会では、来賓紹介、会長挨拶の後、6 つの議案について全会一致で可決されました。また、一昨年前まで懇親会で行っていた優秀学生表彰も総会で実施し、受賞者の方々にとっては晴れの舞台でもあったのではないのでしょうか。今年度卒業、修了予定の方も、受賞を目指して、日々の学生生活を頑張ってくださいと幹事一同願っております。

今年度の暁木会役員は会長に新制 23 回の井澤元博様、副会長に新制 27 回の小畑博之様、新制 32 回の伊藤裕文様に、9 人の常任幹事で構成されることとなります。なお、議案の内容は HP の資料をご覧ください。



■ 華やかな新会員の面々

日時：平成23年3月23日 総会18:00～19:20、懇親会19:30～21:00
 会場：湊川神社 楠公会館
 出席者：ご来賓(名誉教授、教官) 23名、会員56名、卒業生・修了生91名 (合計170名)
 議事：1.会務報告、2.会計報告、3.監査報告、4.役員改選、5.予算案
 次第：・大学近況報告、支部活動報告、KTC報告
 ・卒業50周年祝金贈呈 (新制10回生 代表：中村武功様)
 ・暁木会賞：植田綱基様、KTC賞：土肥裕史様、市民工学教室賞：甲斐田秀樹様
 優秀修士論文賞：荒金延明様、藤原鉄也様、阿河一穂様、田中健治様
 ・新会員歓迎の言葉：中西 弘様C97
会員数：卒業・修了者：4,511人、会員数3,600人 (平成24年4月1日現在)
H24年度役員 会長:井澤元博⑳、副会長:水口和彦㉓・伊藤裕文㉔、KTC副理事長:本下稔㉕、KTC理事:田中稔㉖、水池由博㉗、常任幹事:荒瀬義則㉘、野並賢96C、久保真成㉙、山口充㉚、古川雅一㉛、平岡明子㉜、宇都善和㉝、矢野芳広㉞、伊賀正師㉟



■ 対面席とした総会会場



■ 会長と新副会長、新幹事あいさつ



■ 大学近況報告 専攻長芥川真一先生



■ 新会員の挨拶 植田綱基様



■ 懇親会来賓挨拶 来馬章雄前五色町長



■ 懇親会 締めの方歳三唱

田中泰雄先生、中山昭彦先生最終講義と退職記念パーティー

・田中泰雄先生・中山昭彦先生定年退職記念事業

平成 24 年 3 月 31 日を以って、田中泰雄先生、中山昭彦先生が神戸大学を定年退職されました。田中泰雄先生におかれましては 31 年 4 ヶ月、中山昭彦先生におかれましては 21 年 6 ヶ月の長きに亘り、本学における教育・研究、さらに学会活動・社会活動と多大な貢献をされてこられました。このような両先生のご活躍とご功績を讃えるとともに、教えを受けた先生方に感謝の意を表すために、定年退職記念事業を企画いたしましたところ、多くの方々のご賛同を得まして、平成 24 年 2 月 24 日に楠公会館にて、無事、本事業を執り行うことができました。



■最終講義

当日は、記念祝賀会に先立って、楠公会館「菊水の間」にて両先生の最終講義が行われ、145 名の方々に参加いただき、会場は満席となりました。両先生の熱のこもったご講演に参加者は熱心に聞き入っておられるとともに、活発な意見交換がなされるなど非常に盛況となりました。

【田中泰雄先生の最終講義： 地盤、地震、そして国際協力を通じて】

留学やコンサルタント会社に勤務して主に海外で過ごされた 1970 年代、大学に戻られた 80 年代以降に取り組みられた大阪湾の海底地盤や AE 計測を用いた土の研究、2000 年代半ばからの阪神淡路大震災の教訓を世界に発信する様々な国際協力活動等を紹介され、技術者や研究者としての田中先生ご自身の現在までの道程をお話いただきました。全体を通じ

て「リスクを恐れずチャンスと思ったら積極的に挑戦すること」や「人のつながりと互いに支えあうこと」の重要性を強調されていたことが印象に残るご講義でした。



【中山昭彦先生の最終講義：流体力学の応用 — 構造、水理から航空、環境へ (mediocre' challenge)】

神戸大学学部生であった 1970 年以前から、海外の大学、企業での研究活動を経て、神戸大学に戻られた 2000 年代以降を 5 つの世代に区分され、流体力学の応用の進展についてご説明いただきました。また、最近の研究成果である、三次元乱流解析による河川浸水や津波のシミュレーションなど、実務でも非常に参考になる研究成果をご紹介いただきました。講義は終始、素晴らしい指導者との出会いとその指導内容、共同研究者との思い出などを交えてお話になられ、中山先生のこれまでの軌跡をたどるような、非常に興味深く楽しいご講義でした。



■ 記念祝賀会

最終講義終了後、楠公会館「青雲の間」にての記念祝賀会が行われ、会場一杯の164名もの方々に参加していただきました。祝賀会では、神戸大学大学院工学研究科長の小川真人先生、ご級友の藤井登史雄氏（18回生）、研究室卒業生代表の久保勝俊氏（41回生）、横嶋哲氏（98年卒）からのご祝辞をいただき、宮本文穂先生（山口大学 教授）のご発声による乾杯で歓談が始まりました。お集まりいただいた同窓生の皆様や先生方に縁の深い方々は、久しぶりに顔を合わせた方も多く、大いに話に花が咲きました。

祝賀会の終わりには、長年のご指導に感謝して両先生に記念の品として旅行券が贈呈され、両先生からそれぞれ謝辞をいただきました。田中先生は、最終講義や祝賀会に多くの方々が集まっていたことや、集まった醸金の一部が神戸大学の被災地支援活動に役立てられることについて感謝され、先生ご自身は5月頃からマレーシアの大学で教鞭をとられる予定で、今後も機会があれば皆さんに協力したい旨を述べられました。

中山先生からも、このような盛大な記念事業を行っていただいたことに対する感謝が述べられ、また、長いアメリカ生活から帰国した際、先生方や同窓の皆様が寛大に受け入れてくださったこと、神戸大学での研究は学生のアイデアや努力の成果であること、共同研究を行ってきた企業の方々の支援なしには自らの成果は成し得なかったことなどが語られ、多くの方々への感謝の意が述べられました。

そして、両先生ご夫妻を囲んで記念撮影が行われ、実行委員を代表して吉田信之先生（神戸大学 教授）による閉会の挨拶で祝賀会は盛会裏に終了しました。

なお、本事業の醸金の一部は、両先生の強いご意向により、神戸大学の東日本大震災支援活動の寄付金として活用されました。 （文責：白川 和靖[㊟]）



同窓会報告

・土木工学 39 回生 神田ゼミ 小同窓会（神田先生を囲んで）

先日の 6 月 30 日（土）に土木工学神田ゼミの小同窓会を 39 回生を中心に開催しました。神田先生は退官直前に体調を崩され、記念式典の最終講義も実施されませんでした。その後、懸命なヒハビリ治療を経て、かなり良好な状態に回復されましたが、現在も引続きリハビリで体調管理を続けられています。

よって、今回は初めて先生が参加して頂けるとのことでしたので体調を考慮し小規模で開催しました。今までも 39 回生を中心に不定期ではありますが、たびたび同期会を開催しております。皆さん学生時代とは、あまり変化なく。少し髪の毛が減った方、かなり髪の毛が増えた？体型が太った方、転職した方、結婚し直した方など、人生いろいろだと実感しましたが再会すれば、すぐに当時の研究室仲間に戻ることが出来ました。

先生も当時と変わりなく『辛口』コメントで『会社を首になった者は、おらんのか？』『おまえ、ちゃんと会社に勤めて働いてるか？』など、すこぶる饒舌に語られていました。そして最後に一言と、お願いしたところ。。『おまえら、ほんまに学生時代から成長してへんな！』と、心温まる？お言葉まで頂きました。

しかしながら各人、所属企業に戻れば、それなりの権限をもち業務に邁進している立場であります。そんな立派な教え子？を輩出していても先生にとっては、まだまだ学生時代の青二才の印象しかないようです。

また神田先生自身の環境も大きく変わり、お孫さんが 6 人もできたとのこと、やはり時の流れを感じました。それに偶然ながらこの会の翌日 7 月 1 日には御歳 74 を迎えられます。それを祝い、皆でバースディケーキを頂きました。その際に合唱したバースディソング、おっさんの野太い声で周りのお客さんを沈黙させてしまいました。（お店の方、お客さん、すいませんでした）

あっという間に所定の時間となり、先生の中締挨拶『一本締め』で無事、宴会を終了することができました。当日、雨で足元が悪い中、集まっていた皆様、お疲れ様でした。先生の表情も終始、明るく満面の笑みで会話されていたのがとても印象的でした。今後、これを機に年に 1 度ぐらいは先生を交えて同期会等を実施したいと思います。

（文責：矢野 芳広^③）



現役最前線

・建設現場で考えること

株式会社竹中土木 新名神高速有野川橋下部作業所 川崎 哲人 ③⑥

続々と入場する生コン車のエンジン音、ポンプ車の力強い鼓動、うなりを上げるバイブレーター、作業員達のかけ声。現場をやる者にとって、コンクリート打設ほど活気に満ちてやりがいを感じる瞬間はない。

入社以来 25 年が経とうとしているが、その大半を内勤技術部門で過ごした私にとって、今回の久しぶり現場でも、若い時と同じ感動を味わせて頂いている。

さて新名神高速道路は、愛知県名古屋市から兵庫県神戸市に至る全長約 170km の高速自動車国道である。本年 4 月に凍結の 2 区間が解除されたことによって、全線開通の目途がたったことが記憶に新しいのではないだろうか。こうした中、現在私が勤務している有野川橋（下部工）工事は、新名神高速道路の終点部分にあたる神戸ジャンクションに接続する橋梁工事である。工事延長 857m の中に、橋梁下部工（橋台 6 基、橋脚 46 基）を構築する。工期は約 3 年半であり、現在本体工事にかかり始めたところだ。

現場自体は特に大きな技術的課題もなく、橋脚数の多い直接基礎の橋梁下部工工事であるが、中国道、山陽道への近接施工はもちろん、他にも県道、神戸電鉄といくつもの施設にまたがっているのが特徴である。また、未買収地が点在する区間があるため、それらの動向を睨みながら、良好な現場運営をしているのが重要となる。

というわけで、あと 2 年あまり、所長業を通じて吸収すべきことは多い。ここでしっかり鍛錬しておくべきと思う次第である。

最終的にものができあがる現場は、近年ともすれば若者に敬遠されがちかもしれないが、現場が順調に終わってから見る夕暮れの景色、竣工時の充実感を是非味わって欲しいと思うのは私だけであろうか。



現場見取り図



現場状況(1)



現場状況(2)

以上

研究報告(環境学の視点から見た市民工学)

助教 鈴木 千賀先生

名古屋大学・高知大学・愛知県医師会と経験を積み、本年6月に、自然科学系先端融合研究環 重点研究部(市民工学専攻)助教として着任いたしました。私が専門とする事項は、「環境学」--なかでも、海洋生物資源・海洋環境・海洋政策であり、市民工学とは一見関係なさそうな気もいたします。しかし、そう違いは無く、異色な点があるとすれば、それは「生物を相手にした研究」という点にあるかもしれません。

企業でもアセスの観点から「生物がわかる学生」の需要が増えている中で、生物屋の担うべき立場について考えつつ、私の研究室では「都市排水の影響による藻類の異常増殖過程の解明と藻類のバイオマスとしての利用」を主たる研究テーマとしております。この初年度は、前半部分にあたる「藻類の異常増殖過程の解明」に焦点を当て、①GISを用いた藻類の分布調査②藻類の光合成・呼吸測定とその簡易測定機器の開発・改良に取り組み始めております。

同一の湾内でも、年度・季節毎に藻類の分布状況(規模)は大きく変化します。大型藻類に限らず微細藻類に由来する赤潮の分布状況の把握も、沿岸生態系を壊さずに土木開発をおこなう上で重要となってきます。①の研究では、過去からの積算データを使用し、使用するGISについては「学生が独立をしてからも使えるソフト」を導入しております。多くのGISソフトはサポートも充実している半面で大変高価であり、学生が卒業後もその技術を業務や研究で応用出来るかと言うと考え深い部分もあります。本研究室では、近年、そのコミュニティーが爆発的に拡大しつつあるQGIS、GRASS、PostGIS他、オープンソースのGISも選択肢のひとつに挙げております。

また、②の研究については、該当機器の藻類の燃料化分野での需要が見込まれることを今から確信しつつ取り組んでいるものです。「環境学」という学問には分野的な垣根がありません。だからこそ面白く、私自身、助成金を原資とした研究を立ち上げる上では、「異分野の研究者とのコラボ」もかなり意識しているところがあります。この6月にもAlgal Biofuels 2012-SanDiegoにおいて、2011年度の共同研究成果(名古屋大学・中部大学・三重大学ら)の発表をおこなってきたのですが、研究者や企業の関心は②の原型機器を使った成果に注がれ「その機器は販売しているのか?自身の研究にも導入したい。」と言った声が多く聞かれました。コラボの賜物であると思っております。

その他、本研究室では大学に限らず各種専門組織との連携も重視しております。学会発表や論文投稿と同じく、各種専門組織との連携は研究の幅を広げたり、研究成果を政策へ反映させる上で有効な手段だと考えているためです。なかでも、私は技術士会との連携を重要視しております。暁木会の会員の皆様におかれましても技術士の方が多いと伺っております。技術士資格をもつ方の中には、大学教員だけでなく、行政のトップ(都道府県首長、各種独立行政法人理事長・理事)もおられ、私自身、技術士会の人脈を通し、諸先輩方には学生時代より多くの応援を頂いて参りました。研究者としてよりも一足早く「エンジニアの卵」として出掛けた自身の国際会議デビューも、大学・高専・JICA関係者などである女性技術士の先輩方とだったことを思い出します。教員一人の力だけでは出来ること

も限られてきますが学内外問わず強力な仲間をもつことでその可能性は無限に広がるものであるとも思っております。学術の場だけでなく、就職活動の際にも諸先輩方には市民工学学生の力になって頂けるものと考え、こういった場にも学生らと一緒に出掛けることが出来ればと思います。何卒宜しくお願いいたします。

現役学生生活紹介（就職活動報告）

安原 昇平

私は街づくりに貢献する仕事に就きたいと考え就職活動に取り組んでいました。大学受験の際に市民工学科を志望した理由は、建物単体を造る建築ではなく広い面において街づくりができる土木に魅力を感じたからです。この昔からの想いから就職活動においても街づくりができる業種を志望しました。その中でも沿線に街をつくりだし、多くの人を呼び込むという鉄道業界の仕事内容に強く惹かれ第一志望となりました。就職活動の結果、最終的には東京急行電鉄から内定を頂くことができ、非常に満足のいく結果が得られました。私が就職活動を通して学んだことは、「人との繋がり」が非常に大切だということです。就職活動は多くの会社の中から志望する会社を選ぶだけでなく、自分が志望する会社に必要とされなければなりません。そのため、現在働いておられる社員の方に話を伺い、会社の雰囲気や先輩方の就職活動の経験を聞くことが不可欠でした。市民工学科を卒業した先輩達は土木業界に留まらず、さまざまな業界で働いておられます。同じ市民工学科という繋がりを活かし、多種多様な仕事に就いておられるたくさんの先輩方にお話を伺うことができました。みなさん親身に相談に乗ってくださり、自分の将来の方向性を定めることができたと同時に就職活動を成功に導くこともできました。

私が面接の際に自己 PR として話していたことは、市民工学科全体で企画したフットサル大会のことでした。これは市民工において同期の繋がりだけでなく、学年の枠を超えて楽しめる学科にしたいと思い数人の友人と共に企画した大会でした。今では毎年恒例となり、非常に盛り上がるイベントとなっています。就職活動においても、横の繋がりだけでなく縦の繋がりというもの自分の成功の鍵となりました。これから暁木会の新会員として社会に出て働いていきますが、就職活動を通して学んだ「人との繋がり」の大切さを意識し同期だけでなく、先輩、後輩とも良い関係を築き上げ自己の成長に繋げていきたいと考えております。

越智 達也

私は就職活動の際に、人々の生活に広く貢献でき、大きなやりがいを持てる仕事があったと考えていました。そのような視点で業界・企業研究をした結果、自分に向いている業界は、インフラ業界だと考えました。そして、鉄道・電力・ガス・通信といったインフラ企業の会社説明会に可能な限り参加しました。そのため、1月下旬から中旬にかけては、毎日企業説明会に行っておりました。私が説明会の際に心がけていた事は、必ず社員の方と対話することでした。なぜなら、私は企業のホームページやパンフレットだけでは、その会社の社風などといったものはわからず、直接社員の方の生の声を聞き、対話することで、初めて文字などでは表せない、社員の方の雰囲気や仕事に対する熱意というものがわかると思ったからです。

このように就職活動をしていく中で、私はインフラ業界の中でも鉄道業界に興味を持つ

ようになりました。なぜなら、鉄道というものは、毎日利用してくださる多くのお客様を直接目で見ることができ、利用者側になって問題点や課題を発見し、それをサービス向上へと反映できる点が魅力的に感じ、大きなやりがいを持って仕事ができると考えたからです。また、私は研究室で公共交通の研究をしていたことや、幼少時阪神淡路大震災に遭った際に、普段何気なく利用している公共交通のありがたさを身に染みて感じたことも鉄道業界を志望した動機でした。そして、2月の下旬から3月の中旬にかけて、市民工学科のOBで鉄道会社の社員の方と何回か面談をしました。

その中で、JR西日本の社員の方は、福知山線の脱線事故を教訓に、安全マネジメントに卓越した企業にしていくというビジョンをはっきりと持っており、これから自分たちの手でよりよい会社にしていくという熱意が伝わってきました。なので、一番やりがいを持って仕事ができると考え、一番入社したい会社だと思えるようになりました。そして、本社での面接を経て、内々定を頂くことができました。このような間に、研究室の先生方や友人・家族などに相談に乗ってもらい、心の支えになりました。第一志望の企業の内々定が頂けたのも、このような支えがあったからこそであり、大変感謝しております。今は、支えて下さった方に少しでも恩返しができるように、日々研究に励んでいるところであります。

土屋 宏太

私は昨年より就職活動を行い、中部国際空港株式会社より内々定をいただきました。悩むことや辛いこともありましたが、最終的に満足いく形で今後の進路を決めることができ、現在はほっとすると共に、いよいよ社会に出ることにワクワクしています。

私がこの会社を志望した理由は、大きく二つあります。一つは、航空という業界で働きたいという強い想いでした。私は空や飛行機が好きで、今回の就職活動においても、飛行機に関わる仕事ができる企業を中心に志望しました。特に、中部国際空港は今後の中部地域の産業の行方を担う大事な拠点であり、この空港の安全と成長を支えることで、生まれ育った中部地域や日本全体の発展・活性化に寄与したいと考えました。二つ目は、この会社における専門の枠に囚われないスタイルです。滑走路の管理や乗入便誘致のための営業など、様々な業務内容は私にとって非常に大きな魅力でした。その中で、私がこれまで勉強してきた土木工学や気象学といった知識を活かして仕事ができればと思っています。

また、就職活動における企業選びの軸として私が一番重視したことは、仕事そのものを「面白い」と思える気持ちでした。働くことに能動的であれば、一生を面白く過ごせると考えるからです。またそのため、仕事をする中でチャレンジ精神を持てる、その機会に溢れていることも重視しました。これからも新たに多くのことを学び経験し、現状に満足することなく自分自身を大きく成長させていきたいです。

就職活動では自分の内面を見つめ直すと共に、私を育ててくれた両親をはじめ、お世話になった方々や友人など、これまで関わってきた多くの人々に改めて感謝しました。航空というインフラには政治・社会的な面も大きく絡み、多くの方が関係していますが、私はその中で空港という「現場」で働く者として地域と密着しながら、行政と航空会社の橋渡しができるような存在になりたいと考えています。まだまだ未熟者ではありますが、これらの思いを胸に、新たな舞台で存分に活躍できるよう頑張っていきたいと思っています。

支部総会の報告

・東京支部報告

平成 24 年度暁木会東京支部総会を平成 24 年 6 月 8 日（金）、ホテルグランドヒル市ヶ谷で開催しました。来賓として大学より鍬田泰子准教授、暁木会本部より井澤元博会長にご出席いただき、また東京支部会員は 33 名が参加しました。

総会前に鍬田先生より「液状化による地中管路被害集中域の特性」というテーマでご講演いただきました。3.11 震災から 1 年が経過し、次第に事象が解明、整理されてきていますが、旧地形による影響の大小とその分析によるホットスポットの存在など関東エリアも被災地ですので、実感をもって聴講することができました。

総会では時政支部長のご挨拶に引き続き、通常審議が滞りなく審議されました。また本年度 KTC 東京支部の活動について報告されました。井澤会長よりご挨拶と本部の活動状況のお話をいただいた後、最後に本部助成金目録の新支部長への授与をもって総会議事を終了しました。

懇親会は冒頭に鍬田先生より大学の近況のご報告をいただき、山下副支部長による乾杯の発声により始まりました。途中、旧交を温めるグループ、先輩のお話に耳を傾ける若手などあちこちで歓談の輪ができました。中ほどでは、左中会員による東京六甲クラブ（旧凌霜クラブ）近況報告もあり、盛況な中、懇親会が終了しました。

平成24年度は支部見学会なども企画しており、いっそう暁木会の活動の輪を拡げていきたいと事務局一同、考えております。どうぞみなさまのご支援、ご協力のほどよろしくお願いたします。

（文責：野村 貢^③）



東京支部総会ご出席者

暁木会年会費納入のお願い

平成15年度から導入いたしました年会費につきましては、現在、1,000余名を数える会員各位にご理解とご協力をいただいています。本誌をもってお礼を申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには未だ十分ではありません。現在、KTCのメーリングリストや、クラス幹事、各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費会員へのサービスとしては、暁木会ニュースおよび会員名簿の発行をさせていただいております。会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を送付いたしますので、下記の連絡先にご連絡くださいませ。よろしくお願い致します。

※年会費の集金方法につきましては、現在、集金代行業者（三菱UFJニコス株式会社）に委託し、会員の指定金融機関から年1回の自動引落しの制度を採用いたしております。

平成24年度の名簿発行について

今年度は、2年に1回の修正版の名簿を発行する年となっております。主な登録内容は以下の通りとなっておりますが、変更がございましたら、お手数ですが、KTC事務局（TEL:078-871-6954、FAX:078-871-5722、e-mail:ktc@mba.nifty.com）にご連絡いただけますようお願い申し上げます。なお、前項にも触れましたが名簿は会費会員にのみ送付しておりますので、この機会に会費のお支払いを是非ご検討頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

主な登録内容：①勤務先名称、②勤務先所属部署名、③勤務先役職名、④勤務先郵便番号、
⑤勤務先住所、⑥勤務先TEL、⑦勤務先FAX、⑧勤務先E-mail、
⑨現住所郵便番号、⑩現住所、⑪現住所TEL、⑫現住所E-mail

おわりに

今回のニュースはHP上のweb版のみ発信させていただくことにしました。これまでは、KTC機関誌に同封することで出版コストを抑えていたのですが、KTC機関誌が経費節減のため印刷版の発行を年に2回から1回（3月）とし、9月はweb版のみとなったため、暁木会ニュースもそれに準じた対応を取ることにしたためです。予算上の都合もあり、あしからずご了承いただきますよう、よろしくお願い致します。なお、12月に発行予定の名簿には、ニュースを同封する予定です。

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集していますので、下記連絡先にメール等頂ければ幸いです。

発行者：暁木会

連絡先：常任幹事 矢野 芳広 ㊟

株式会社 間組 大阪支店

TEL:06-6348-1142 FAX:06-6348-1090

E-mail : yanoy@hazama.co.jp